

読者の声



今も昔も

本誌54巻6号に掲載された連載「はじめてのマネジメント学 できることから始めよう」の第6回「リーダーとしての振る舞い—求められるリーダーシップ」(片岡靖子先生)を拝読しました。また、数年前に貴重な書籍を読む機会を得ました。1964年に第1回日本リハビリテーション医学会学術集会の会長を務められた水野祥太郎氏は、約90年前の1933年(昭和8年)に黒百合社から『岩登り術』を出版されています。そのなかで水野氏は、「リー

ダーの資格は、隊員中に於て最も優れた岩登り家であるのを要するのは勿論であるが、特にその判断力と意志とに良き性質を具へてゐねばならない」、また「よきリーダーシップは、隊員の良きメンバーシップあってこそ始めてその真面目を発揮出来る。ここに言うメンバーシップとは自己を殺した盲従に終始するフォロワーシップでなく、共同責任の自覚の上に立って隊員各自の能力を極度に發揮する主旨のもので無ければならない」(一部旧字体から新漢字に変換箇所あり)と述べられています。今も昔も本当に大切なことは変わらないのかもしれませんが、これからも日々、よきリーダーシップやマネジメントのあり方を学び続けたいと思います。

垣内優芳 神戸市立西神戸医療センター